

研究に関する情報公開について

研究課題	手根管症候群の正中神経断面積（CSA）と SWT スコアとの関連性について
研究機関の名称	医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科，整形外科
研究責任者	清永健治
研究対象者	2025 年 6 月から 2025 年 11 月まで当院で CTS に対し鏡視下手根管開放術を行い，術前から術後 1 年まで経過観察可能である患者を対象とします。
研究の目的・意義	<p>Semmes-Weinstein monofilament test（以下 SWT）は手根管症候群を始めとする絞扼性末梢神経障害における代表的評価法です。当院では 2016 年 4 月からの診療報酬の改定に伴い，末梢神経障害患者に対する精密知覚機能検査（以下感覚検査）の算定が可能となったことを受け，主に手根管症候群（以下，CTS）や肘部管症候群の患者様に対し，術前から術後 1 年までの期間，SW テストや痺れの評価，筋力評価など評価を行い術後 1 年までフォローアップを続けています。SW テストについては，結果を点数化し，33 点を上限とし減少すればするほど正常値に近づき，11 点以下を日常生活での不自由さがほぼ消失する「基準値」として採用しています。</p> <p>CTS の補助診断法には，超音波検査，電気生理学的検査などがあります。超音波検査による正中神経断面積（Cross sectional area：以下，CSA）の測定は CTS 診断のスクリーニングとして有用とされています。一方，神経伝導速度検査は CTS の診断に有用であることに加え，電気生理学的重症度を用いて客観的な CTS の評価ができます。しかし，神経伝導速度検査には，超音波検査と違って施行時に患者に不快感を与えることや，リハビリ場面や診察場面等で即座の施行が難しいという欠点があります。</p> <p>CTS の患者様においては病期の進行過程において正中神経の形態変化（腫大や扁平化）が起きることが知られており，1991 年絞扼部近位での正中神経の腫大を生じていることが超音波検査を用いて初めて報告されて以来，多くの報告がみられるようになりました。近年ではこの CSA を測定し，電気生理学的検査との関連性や，CTS 患者における CSA のカットオフ値の報告など，様々な報告がされています。しかし，当院で積極的に実施している感覚障害の検査である SWT との関連についての報告はなく，感覚障害という側面から CSA との関連性については検討の余地があると考えました。今回はこの点に着目し，CTS 患者の術前後における CSA と SWT スコアとの関連について検討を行うこととしました。</p>
研究方法	2025 年 6 月から 2025 年 11 月まで当院で CTS に対し鏡視下手根管開放術を行い，術前から術後 1 年まで経過観察可能である患者を対象とします。調査時期は術前，術後 1 ヶ月，3 ヶ月，6 ヶ月，1 年とし，評価実施ごとにデータを収集させていただきます。
研究期間	石橋総合病院倫理委員会の承認を受けてから 2027 年 7 月末まで。
研究に使用する情報	以下の情報を使用します。 術前，術後 1 週，術後 1 ヶ月，3 ヶ月，6 ヶ月，1 年時点における SWT スコア，

研究に関する情報公開について

	痺れ VAS スコア（安静時・夜間・運動時）、手根管断面積（CSA）、年齢、性別.
研究に関する情報公開の方法	対象の方でご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の資料（学会に提出する演題抄録、発表演題のデータ）を研究責任者と対面で閲覧することが出来ますので、お申し出ください.
個人情報の取り扱い	診療録から抽出する情報は、個人が特定できないように、研究責任者が病院 ID、氏名、生年月日の情報を削除し、個人の特定できる情報を新たな符合に置き換えた上で研究に使用します. データは研究責任者がリハビリテーション部門内で厳重に保管します. 新たな符合と個人を特定できる対応表を同様に厳重に保管します. また、研究成果は、個人を特定できないようにして学会発表や論文などで報告します.
研究組織名称	医療法人社団友志会石橋総合病院リハビリテーション科 清永健治（研究責任者）
問い合わせ先	【研究責任者】 医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科 清永 健治 〒329－0596 栃木県下野市下古山 1－15－4 電話：0285－53－1134